



防災士よこはま

日本防災士会横浜支部通信

第12号 NO. 012

日本防災士会横浜支部

支部長 今井 淳

事務局長 早乙女善彦

発行日 2016年10月1日

新横浜町内会「防災講演会」実施報告

新横浜町内会は横浜市港北区にあります新横浜1丁目、2丁目、3丁目の地域です。

位置的にはJR新幹線「新横浜駅」駅前一帯で、商業集積地に当たる大型店舗、ホテル、高層マンション、一般住居が混在し企業も多くあり自治会活動が難しい地域です。

去年は企業の防災責任者向けの「気象講習会」で気象庁関係者が講師をされたとのことです。

自主防災組織があまり機能していないということで、今年度は地域住民向けに「自主防災組織の在り方」について日本防災士会に依頼がきました。

日 時 2016年(平成28年)10月1日(土) 14:00～15:40

場 所 神奈川県トラック協会総合会館 7階大研修室

来 賓 神奈川県議会議員: 大山奈々子

主 催 者 新横浜町内会(会長:金子清隆、防災部長:飯田勝裕、防災部副部長:小林 勇)

神奈川県トラック協会総務部長:会田 修

参 加 者 新横浜町内会 44名、

日本防災士会横浜支部:長沼副支部長、徳江副支部長、小菅幹事、防災士:庄子健治、庄子さち子

内 容

14:00～15:00

(講演)「自主防災組織の在り方」について 日本防災士会横浜支部 長沼副支部長

15:00～15:30

災害用資機材の展示:日本セイフティ(株)ラップボン事業部、(株)セットアップ横浜、奈良建設

【講演内容】

「自主防災組織の在り方」について パワーポイント(26ページ)をプロジェクター投影して説明しました。

- ・地域特性として商業集積地の考え方「街区防災」内容を説明しました。
- ・企業のBCP(事業継続計画)がなされている。
- ・組織体制として防災ネットワークの構築すること。
- ・ソフト面では防災コーディネーターの必要性があること、養成していくこと等を強調しました。
- 住民、自治会・町内会、区役所、その他団体との連携をする役回りが必要。
- ・防災ボランティアを育成すること。

【質疑応答】 特にありませんでした。

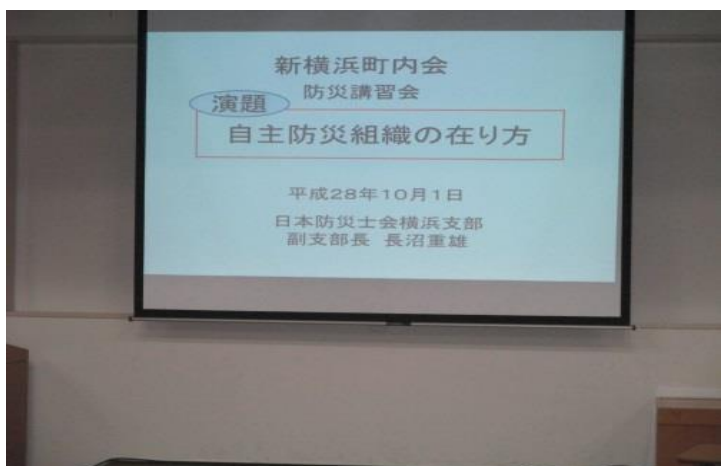
【受講者からの感想】

- ・防災対策に係わらず、地域における住民同士のコミュニティ作りの重要性を再認識した。
- ・一般的に使われている『自助』『共助』『公助』の違いが理解できた。
- ・共助の重要性、住民同士の助け合いの必要性・重要性を再確認した。
- ・町内会として出来る災害対策の内容について、もう一度考える必要があると思われる。
- ・日頃からの防災に対する意識・知識の向上につとめるきっかけとなった。

【講師から】

これからも町内会主催の防災講習会に積極的に尽力したいと意志を新たにしました。

【会場写真】



報告者:長沼重雄